

## 平成 13 年度第 2 回 OR 企業フォーラム報告

### ●テーマ：「IT と企業経営」

講師 富士通株式会社 代表取締役社長 秋草直之氏

平成 13 年 10 月 4 日(木) 学士会館 会議室

さる 10 月 4 日(木)に、学士会館(神田)において平成 13 年度第 2 回 OR 企業フォーラムが開催された。参加者は大学・企業合わせて約 50 名に上り、ゲストスピーカーとしてお迎えした富士通株式会社の秋草社長の「IT と企業経営」と題した講演及び懇談会が行われた。午後 6 時過ぎに、長谷川 OR 学会会長の挨拶の後、講演が始まった。

講演は、まず IT はアメリカの軍事から発展しており、それが産業に移り一般家庭に浸透しているが、日本は軍事がないのでそのハンディキャップを産業が埋めないとけないという説明があった。また、産業界が頑張るための具体例として、PC のディスク容量が年々倍になり高機能化技術がどんどん進んでいる反面、これらの技術の供給を使いこなすだけの要求がないこと、したがって 10 年後に 10 テラという容量を使いこなす要求を実現するためには何かブレークスルーが必要となることを指摘された。そのため多くの情報を扱うアプリケーションとしてデジタル画像と医療の組み合わせやトレーニング分野への適用などのトータルシステムを考える必要があるとの説明に、通信の分野でもブロードバンドという言葉が家庭にも浸透し技術は進歩したが、それを十分に使い切る用途がないのが問題であるとともに、様々な分野を融合し新たなアプリケーションを創出する必要性を痛感した。

続いて、企業や行政といったシステム連携、通信や放送といったメディア連携、モバイルや電話などの機器連携が始まり、情報流通の革新がめざましい中で、個人のプロフィールに適合した情報を供給する仕組みとしてエージェント機能が重要になるとの紹介があり、自分のほしいものを探し求めていく方法が世の中を活性化していくということが理解できたように思う。

また、IT の活用という観点から、企業は従来の人事・総務・マーケティングなどの管理から脱却し、お客様と直接会話するニューアプリケーションを開拓し



ていくことが重要となるとの説明があった。インターネットを通して新しい領域をつくり出していく具体例として、富士通におけるコンピュータ活用事例(社内でも Web オフィスシステムなどを活用したり、電子メールを徹底的に利用するなど)を紹介され、そのために高度なセキュリティは最大の経営課題であるというお話は、セキュリティの重要性を改めて認識させられた。マネジメントの観点から、IT 施策を実施する場合徹底的にやるか全くやらないかのどちらかであり中途半端に共存させてはいけないということ、このようにすることによりマネジメントや組織のあり方も全然違ってくるという説明は説得力があり、多いに共感するところであった。

最後に、日本の伝統的な強みであるチームワークと情報共有化を活かして IT をどう取り入れるか、インターネットのグローバル化が進む反面ナショナリズムが台頭してインターネットがオープンでなくなる危機が来た時に、日本はどのような方向に進むのかを決めなければいけないという問題提起をしていただいた。

講演は 1 時間ほどで終了し、その後ビール軽食を伴った懇談会に移った。最後になったが、様々な観点から情報化の今後の動向をお聞きできたが、企業としてどのように取り組まなければいけないかという点は非常に印象的で、有意義なフォーラムであった。

(文責・研究普及委員 NTT 東日本 岩下 基)